

2025 年 12 月 校長メッセージ「唐獅子さん」

今からおよそ 20 年前のことですが、父が実家の神社に奉納する「唐獅子さん」の石材を御影石（みかげいし）にするか来待石（きまちいし）にするかで悩んでいました。父の実家は島根県松江市内の小さな神社の宮司の家です。神社は小さいながらも現在 NHK の朝ドラ「ばけげん」に取り上げられているラフカディオ・ハーンゆかりの神社で有名で、それまで敷地いっぱいに建っていた大社造りの社（やしろ）を、こじんまりとした小さな社に建て直して遷宮するのに合わせて、父は神社を守る「唐獅子」を奉納しようと思立しました。

神社の鳥居をくぐると拝殿前の左右に 1 対の狛犬が置かれていることがあります。狛犬は口を開けている阿形（あぎょう）と、口を閉じている吽形（うんぎょう）があつて、物事の始まりと終わりを意味すると言われていますが、この狛犬はもともと古代オリエントやインドで神聖視されていたライオンが、仏教の守護獣として中国で「獅子」という霊獣に変化したものとされています。仏教の伝来とともに日本に伝えられ、「獅子」像は神社や寺院に置かれました。日本で最も古い時代の「獅子・狛犬」という一対の形式の木像は、京都の東寺に伝わる木造獅子像で、平安時代前期（9 世紀）に造られたと考えられています。また、最も古い石の「獅子」は、鎌倉時代の建久 7 年（1196 年）に造られた奈良の東大寺南大門の石獅子だということでした。

平安時代、獅子は左右同じ形の二対の像でしたが、やがて左右の像に違いが生まれ、左側の口を閉じた像を特に「狛犬」と呼んで「獅子」と区別するようになりました。また、当初の狛犬は日本古来の別の霊獣の影響があつたためか、頭に角（一角）をもっていました。やがて時代が下がるにつれて角は短くなっていき、ついには「狛犬」と「獅子」の姿かたちは、口を開けた、開けない以外の区別がつかなくなったと言います。現在は「獅子」と「狛犬」を区別することはなく、私も父が「唐獅子さん」の話を持ち出すまで、「獅子」と「狛犬」は同じものと考えていました。

父にとっては神社を守護する霊獣はあくまでも「獅子」であつたようです。中国から渡ってきた「獅子」を「唐獅子」と呼ぶようになったのもやはり平安時代でした。直接父に聞いたわけではありませんが、父は「唐獅子」のほうがより正統な霊獣で、実家の神社を守ることができる強さを持ち、地域に豊かさをもたらす存在だと信じていたと推測しています。

その「唐獅子」の石像を神社に奉納するにあたり、石の種類をどうするかを父は悩んでいました。「御影石」は言うまでもなく花崗岩のことです。花崗岩は火成岩の一種で、地下の深いところでマグマがゆっくりと時間をかけて固まってできる「深成岩」です。硬くて緻密であることや、磨くととても美しいことから建材として広く使われ、いろんな建物や記念碑、墓石に使用されています。現在日本で使われる花崗岩の多くがインドや中国からの輸入品ですが、日本各地でも花崗岩は産出し、その中には美しさから特別な名称で呼ば

れる石材もあるようです。調べてみると、香川県産の庵治石（あじいし）は「御影石のダイヤモンド」と称される最高級品で、独特の「斑（ふ）」と呼ばれる二重のかすり模様があるということですし、愛媛県産の大島石（おおしまいし）は「石の貴婦人」と呼ばれ、青味を帯びた細やかな石目が特徴、茨城県産の稲田石（いなだいし）は「白い御影石」として、迎賓館や国会議事堂、東京駅など、歴史的建造物にも多く使用されているということです。

一方の来待石は島根県産の凝灰岩質砂岩で、灯籠や庭石、土台石に用いられ、加工しやすいことで有名な石材です。凝灰岩は火山灰をはじめとする主に粒径が4mm以下の火山噴出物（火山砕屑物）が地上や水中に堆積し、長い時間をかけて固まってできた岩石のことを言い、凝灰岩質砂岩とは、砂岩の主成分である石英や長石などの粒子の間に、火凝灰岩質が混ざって固まった岩石のことを言います。主に島根県松江市宍道湖湖畔で採掘され、江戸時代には、松江藩主が「御止石（おとめいし）」として藩外への持ち出しを禁じるほどの特産品として重要視されていたということです。比較的軟質で加工しやすいことから、古代から現代に至るまで、非常に幅広い用途に使われてきました。例えば松江城の石垣や、城下町の石段、敷石、川の護岸工事、石灯籠や石碑、狛犬などの彫刻品、石臼、かまどなどの生活用品など、その使い道は多種多様です。松江市宍道町には、来待石の歴史や文化、地質を紹介する来待ストーンミュージアムがあり、石切場跡を見学できるそうです。

凝灰岩の石材として有名なのは、栃木県宇都宮市大谷町で採掘される軽石凝灰岩の大谷石で、軽く柔らかくて加工しやすいため、石塀や石蔵、建物の内装材として使われています。また、秋田県大館市で採掘される十和田石（とわだいし）は緻密な凝灰岩で、濡れても滑りにくく、美しい青緑色をしていることから、温泉の岩風呂や浴槽の石材として利用され、神奈川県鎌倉市周辺で昭和初期まで採掘された鎌倉石（かまくらいし）は、黄褐色から青灰色の凝灰質粗粒砂岩で、鎌倉周辺の社寺の石段や土台石などに広く使われてきました。

父としては、地元の特産品である来待石で「唐獅子さん」をつくりたい気持ちがある一方で、御影石のほうが硬くて長持ちすることから御影石にしたほうがよいかもしれないという葛藤があったようです。

人類は進化とともに石をどのように使うか、役立たせるか、いろんな方法を試しながら現在に至っています。原始時代の石器に始まり、文明が生まれてからはピラミッドに代表される巨大な建造物が石でつくられました。ちなみにピラミッドに用いられた石材は、気が遠くなるほどの大量の石灰岩と玄室に用いられた花崗岩ということです。古代ギリシャでは大理石でパルテノンが建築され、ローマ帝国では石灰と火山灰と水を混ぜてつくられたローマンコンクリートが石材として使用されました。ローマンコンクリートで主要な構造部分の多くがつくられたローマのコロセウムは、現在でも私たちはその壮大さを体感することができます。建築材として、モニュメントとして、さらには美術品、工芸品とし

て、人々はそれぞれの石の独自の美しさ、強度、加工性によって使い分けて現在に至りました。

両国の敷地内に置かれている記念碑、石碑で、来校者の方がすぐに気が付くは、大通り（京葉道路）に面したところに置かれている「国産マッチ発祥の地」の記念碑と「桂友」の記念碑です。「国産マッチ発祥の地」の記念碑は黒御影石、「桂友」の記念碑は白御影石でつくられているのではないかと、AIに記念碑の写真から石材を分析させた回答がありました。「桂友」の記念碑はそれほど白い印象がないので、「国産マッチ発祥の地」の記念碑との対比から、AIが白御影石と判断したのかもしれないと思います。御影石の白と黒の違いは、花崗岩に含まれる石が石英（白）、長石（淡色）が多いか、黒雲母や角閃石が多いかによって起こります。同じ花崗岩であっても色合いや趣が大きく違います。

次に両国で気になる記念碑は、正門左に建てられている芥川龍之介の「大川の水」の文学碑です。言うまでもなく芥川龍之介は最も有名な両国の卒業生です。その文学碑はとても立派で1983年（昭和58年）に建てられました。その文学碑の石材は何か、やはり写真からAIで分析してみると、安山岩からつくられているのではないかという回答がありました。さらにインターネット等で調べてみると、この文学碑は小松石という神奈川県真鶴で発掘される安山岩でつくられているということです。小松石は緻密で硬く、耐久性に優れていること、また、時間が経つにつれて独特の風合いが増すため記念碑によく用いられるということです。確かに写真でAIに判断してもらったところ、石の粒が緻密であることから安山岩でなければ砂岩の可能性もあると判断していました。

職員用の昇降口から校舎に入ると右手に、石でできた差渡し85cmの大きな「三高」の大校章のモニュメントが置かれています。第十三代 荒川 潤校長による説明書きによれば、1927年（昭和2年）に建てられた旧校舎の本館正面に掲げられたもので、当初は「三中」の文字を桜花に配していたけれども、1948年（昭和23年）に学制改革により「三高」に改めたものであるということです。約100年にわたって両国の歴史とともにあり、東京大空襲の戦火をくぐったモニュメントといえることができます。「三中」を「三高」に改められたということなので、天然石材ではないだろうと思いながら、同じように写真からAIに判断してもらったところ、モルタルではないかという回答がありました。モルタルはセメントに砂と水を混ぜ合わせて練ったもの人工の石材です。コンクリートはさらに砂利を加えてつくります。確かにモルタルづくりであれば、それまでの文字を削って新しい文字をつくり付けることは可能なので、おそらくそうなのであると思います。

身の回りにある石でできたさまざまなものや、街を歩いていて見かける記念碑やモニュメントを見直すと、人が行う意匠に改めて気が付くことがあるように思います。

父は「唐獅子さん」の石材を御影石に決めました。完成した「唐獅子さん」一対は神社の入り口左右に座っています。父は自分は死んだら「唐獅子さん」のところに行くと言っていました。今はそこにいるのかもしれませんが。

リンク

[2025 年 11 月校長メッセージ 「カーボンリサイクル」](#)

[2025 年 10 月校長メッセージ 「辞書を食べる」](#)

[2025 年 9 月校長メッセージ 「恐竜の死体が化石化するプロセス」](#)

[2025 年 8 月校長メッセージ 「グラフを発明したのは誰か」](#)

[2025 年 7 月校長メッセージ 「早朝の両国にいるオナガは一体どこから来るのか」](#)

[2025 年 6 月校長メッセージ 「現代社会における霸道と王道」](#)

[2025 年 5 月校長メッセージ 「おいしいラッシーの作り方」](#)

[2025 年 4 月校長メッセージ 「『NEXUS 情報の人類史』を読んで考えたこと」](#)